京都教育大学ＦＤニュース

No.69
2014 年 1 月 9 日
京都教育大学 FD 委員会

****

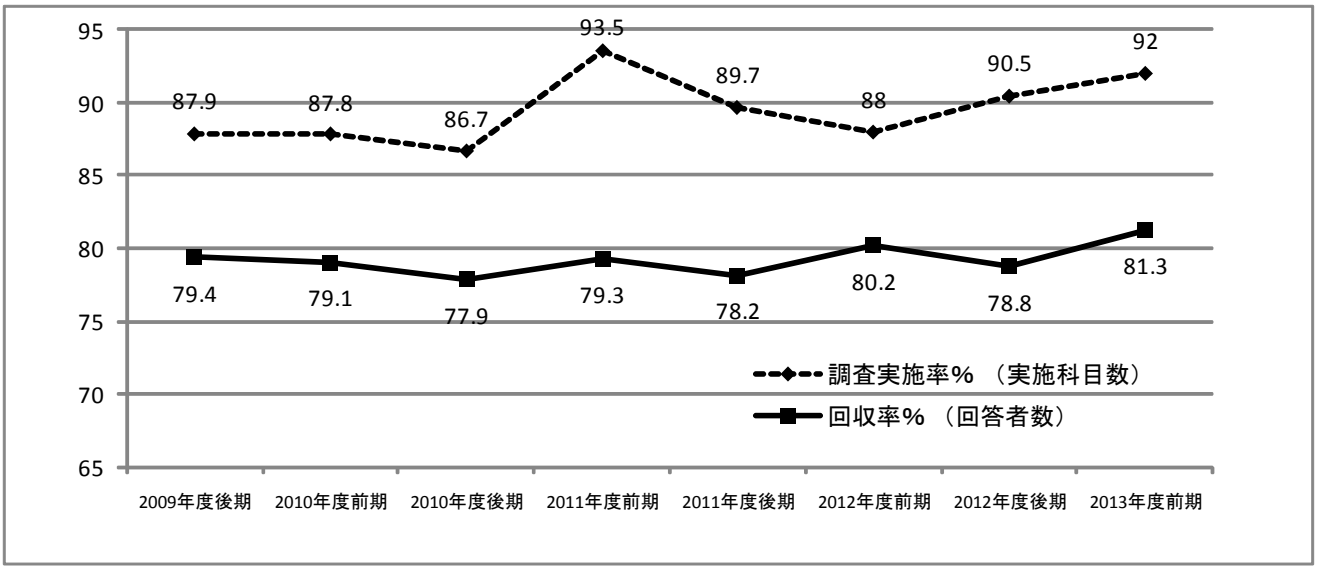
2013 年度前期の学部授業アンケート集計結果について

教育学部講義の授業アンケート（2013 年度前期）の実施にご協力いただき，ありがとうございました。調査の概要と結果をご報告いたします。

１．調査の概要

実施期間：2013 年 7 月 10 日（水）～ 7 月 26 日（金）
対象科目数：401
実施科目数：369（調査実施率 92.0 %）
実施科目の履修者数：13,017 名
回答者数：10,583 名（回収率 81.3 %）

過去４年間の実施率と回収率を下図に示しますが，ここ 3 年の実施率は９割前後に落ち着いてきていますので，着実に FD に対する関心や理解が定着しつつあることがうかがえます。実施科目数 100 %には，未実施の科目数は昨年度後期と同様 32 科目ですので，あと少しというところまで来ています。未実施の内訳を学科毎に分類すると，教育学１，幼児教育１，発達障害４，社会科学１，英文２，数学３，産業技術４，美術３，音楽１，体育９，非常勤３です。一方，回収率は８割前後を推移していますので，今後は回収率も高めていくことが求められます。

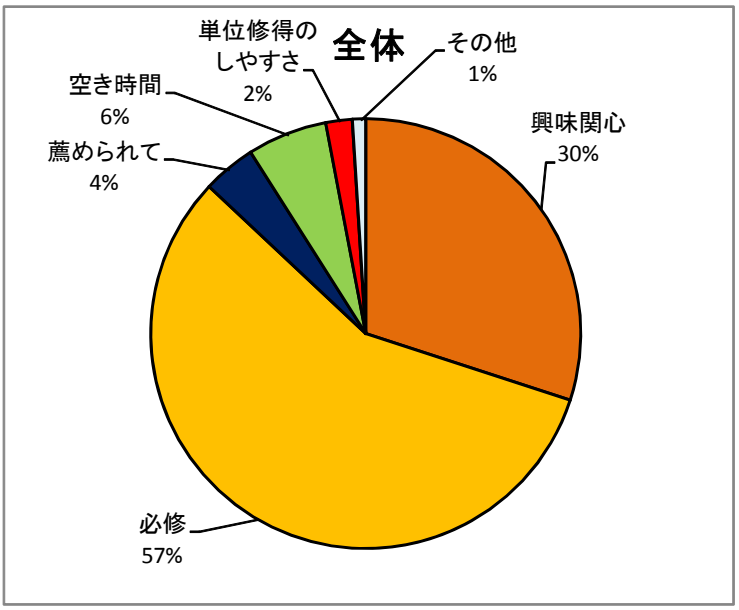


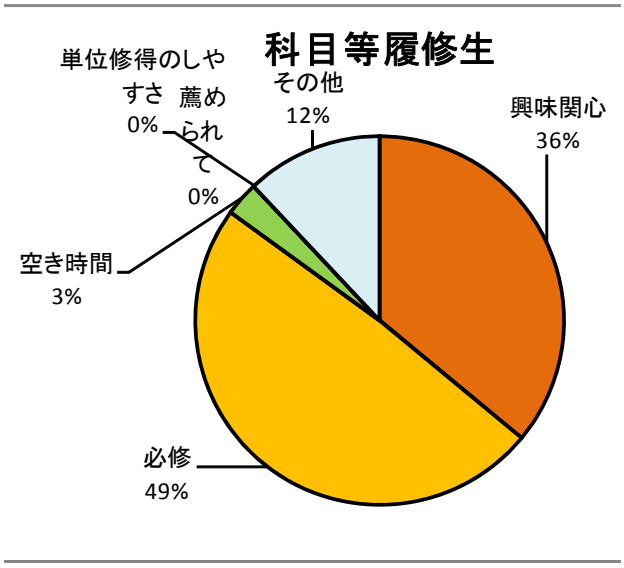
近年の調査実施率と回収率の変遷

２．結果の概要

（１）項目別の回答分布一覧

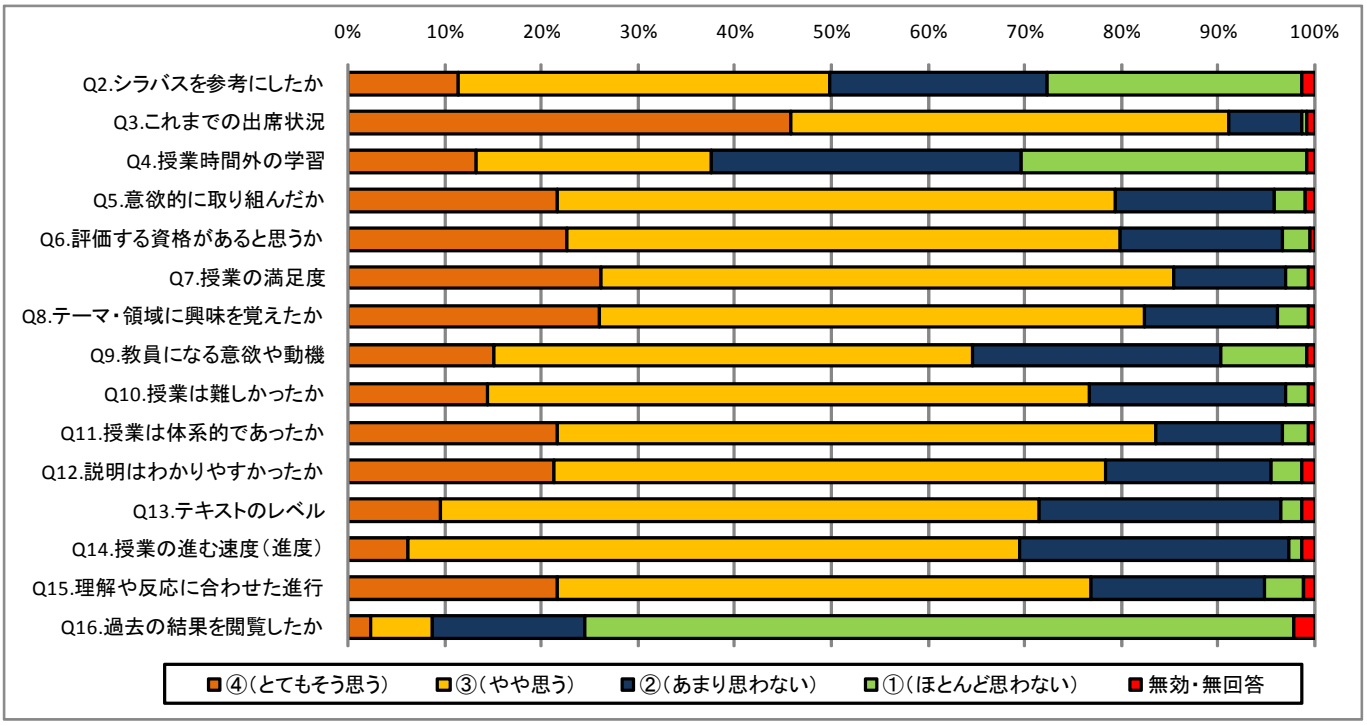
■Ｑ１　受講動機





受講動機 Q1.では，例年と同様に，「必修だから」が最も多く 6 割弱となり，それと「興味・関心」に基づく理由で全体の約 8 割を占めています。単位修得のしやすさを理由にする受講生は 2 %でした。比較のために科目等履修生（のべ 96 名）の受講動機を右に示してあります。比較すると本学の学生は興味関心が少なく，必修だからの回答が多いのが分かります。積極的に学ぶというより，やらされ感が漂うのが気にかかります。ちなみに本学大学院生（のべ 110 名）は，興味関心が 35%，必修 51%，薦められて 4 %，その他 10%でしたので，科目等履修生とよく似た分布になっていました。

■Ｑ２～Ｑ１６　全体回答の帯グラフ



出席状況 Q3 では，9 割強の受講生が「0 ～ 2 回の欠席」と答えています。必修科目が多いこともあり，出席率はよいようです。

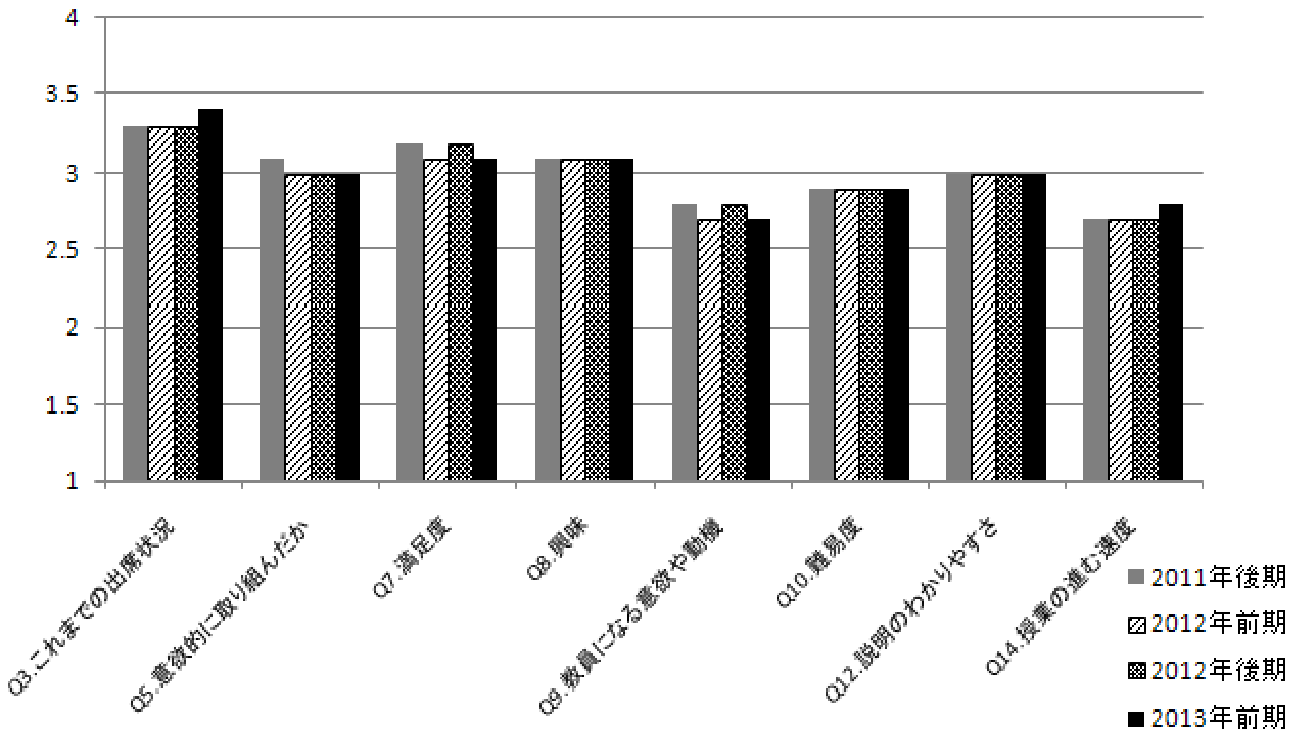
授業時間外の学習 Q4 については，「1 時間未満」「ほとんどしない」という回答者の割合が 62%となっています。この数値は 2011 年前期には 65 %に達していましたが，半期毎に 2 %ずつ減少して前回調査では 59%になったのですが，今回 3%も悪化をしました。ただこの質問項目は標準偏差が他の

どの質問項目より大きく（1ポイント以上），科目によるバラツキが大きいと思われます。これを調べてみると，単に時間外学習が少ない体育系の実技科目の存在を指しているわけではなく，例えば基礎セミナーのような全学的な科目でも標準偏差は1ポイント以上あります。授業担当者がどのような授業展開を進めるかが，授業時間外学習を増やす鍵と思われます。

棒グラフで興味深いことには，Q5 で 8 割弱の受講生が「とても意欲的に取り組んだ」「やや意欲的に取り組んだ」と回答し，Q6 で 8 割強の受講生が公正に評価する資格が「とてもあると思う」「ややあると思う」と答え，Q7 で 9 割弱の受講生が，授業を受講して「とても満足した」「やや満足した」と答えていることです。一方，Q10 では，8 割弱の受講生が「とても難しかった」「やや難しかった」と回答し, Q13 で約 7 割の受講生がテキストが「とても難しかった」「やや難しかった」と回答して, Q14 で 7 割強の受講生が授業の進度が「とてもはやかった」「ややはやかった」と回答しています。前者（Q5 ～ Q7）の回答と後者（Q10,Q13,Q14）の回答とは少し矛盾があるのですが，Q12 の説明のわかりやすさや Q15 の理解や反応に合わせた進行という形で，担当者が授業内容の難易な点を補われている結果かもしれません。

アンケート結果の閲覧 Q16 では，7 割強の受講生が全く閲覧をしていないという結果でした。

（２）過年度と同一項目の平均値の比較



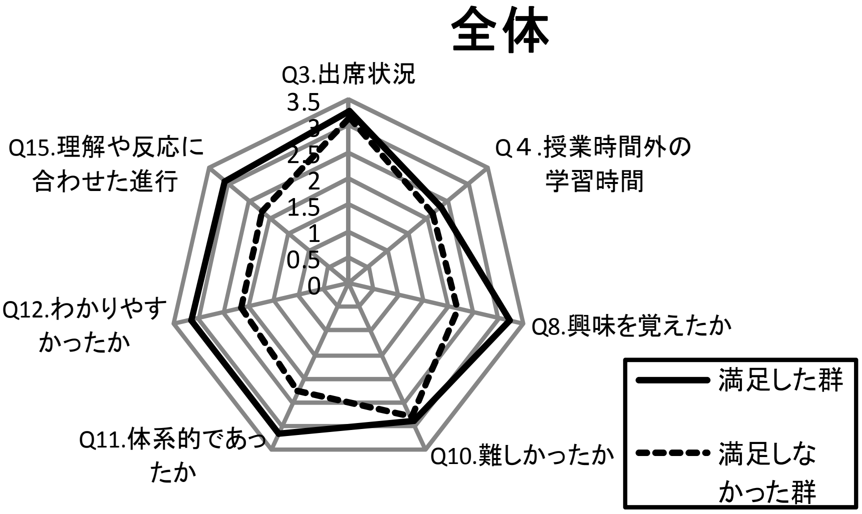
昨年度以前から継続して実施している質問項目について，その平均値を比較したものが上記の棒グラフです。年によって，値はそれほど大きくは変化していないことが分かります。「Q7 満足度」と「Q9 教員になる意欲や動機」については，前期より後期の方が少し高くなる傾向があるのですが，設置されている授業科目によるものなのか，受講生自身の意識の高まりによるものなのかはわかりません。

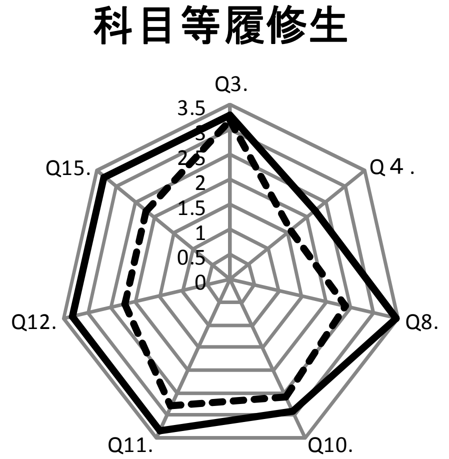
（３）「満足した群」と「満足しなかった群」の違い

「授業に満足した群」と「満足しなかった群」の比較は例年通りの結果となり，満足度は出席状況や授業の難易度とはほとんど相関がなく，また授業時間外の学習時間ともあまり関係がないことがわかります。一方，「授業が理解や反応に合わせた進行」をしているとか，「わかりやすかったか」とか，「体系的であったか」とか，「授業に興味を覚えたか」，という質問項目と大きく関係をしていることがわかりました。この結果は質問項目を新しくした 2011 年度前期から同様の傾向が続いています。授業が難しくても，体系的であったり，説明が分かりやすい，受講者の反応を受け止めていると

満足度が高くなるようです。

比較のために科目等履修生のデータを右に示してあります。左右を比較すると「授業に満足した群」と「満足しなかった群」がよく似た傾向を示していることが分かります。この傾向は，図示していませんが，大学院生でも同じです。出席状況 Q3，授業時間外の学習 Q4，難易度 Q10 の値が左右でほぼ同じ値を示しているにもかかわらず，それ以外の質問項目 Q8，Q11，Q12，Q15 は，いずれも科目等履修生の値が満足度とは関係なく，大きい値を示していることは興味深いと思われます。大学院生と科目等履修生は全体平均と比べ，意欲的に取り組み，授業は体系的であり，説明はわかりやすく，理解や反応に合わせた進行となっていると回答し（おのおの 0.3 ポイント以上），教員になる意欲や動機が高く（約 0.5 ポイント），授業の満足度が高い（0.3 ポイント以上）ことが特徴的です。





（４）各専攻別でのレーダーチャートの差異

質問項目（Q3 ～ Q5,Q7 ～ Q9,Q12,Q15）の８項目に限りますと，当然のことながら，実施科目全体の平均値は各専攻別の平均値とは異なっています。ただし専攻別にすると母数が少なくなるので，特記すべき事（約 0.3 ポイント以上の差）のみ列挙してみます。

幼児教育専攻は，Q9 の教員になる意欲や動機の高まりの値が大きいことが特徴でした。

美術教育（美術）は，Q4 の授業時間外の学習時間が多いのですが，Q9 の教員になる意欲や動機の高まりの値が小さいことが特徴でした。

その他の専攻は，全体の平均値との差が 0.2 ポイント以内でした。

以上のことは，母数が少ないので経年でデータを蓄積しないといけないのですが，これらの結果を参考に，今後の授業改善に役立てていただければ幸いです。

++

2013 年度後期の学部授業アンケート実施のお知らせ

実施期間：2014 年 1 月 21 日（火）～ 2 月 3 日（月）
対象科目：受講登録者数６名以上の全授業

****

問い合わせなどがありましたら，下記の委員までお願いいたします。

FD 委員会委員：安東（委員長），村田（副委員長），内田，藪根，巻本
事務担当：高松，相原，大谷